



フィジー通信 5 (2017年11月18日 ドイツ・ボン)

交渉の様子

COP23 は会期最終日を迎えています。

11月16日(木)夜10時付けで、COP23 議長の COP23 決定案と、「タラノア・ダイアログ促進的対話 (Facilitative Dialogue: FD)」のインフォーマル・ノートと「プレ 2020」についての COP23 決定案が UNFCCC のウェブサイトに掲載されました。

COP23 を閉会するには、APA と COP を開催してこれらの文書を採択する必要があります。すでに、COP23 の閉会予定時間の 17 日午後 6 時を過ぎましたが、まだ会議が開催される様子はまったくありません。

パリ協定第 9 条 5 項の問題も決着がついておらず、現在も交渉が続いています。

「タラノア・ダイアログ」のインフォーマル・ノート

「フィジー通信 1」に書いた通り、私たち環境 NGO は、「タラノア・ダイアログ (促進的対話 (Facilitative Dialogue: FD))」についての両議長による非公式協議の結果がどうまとまるか、そして、その結果を COP がどう位置付けるか、を非常に重視しています。

今回公表された「タラノア・ダイアログ」についてのインフォーマル・ノートは、「タラノア・ダイアログ」は COP23 で開始されること、COP23 議長と COP24 議長がタラノア・ダイアログを主導し、共同議長を務めること、IPCC が発表する 1.5°C 特別報告書のインプットを受けること、ダイアログの成果が排出削減の野心強化であることを確実なものとするため、明確な見通しを発信することが重要、とされています。

すでに公表されていたペーパーと基本的に同じですが、COP23 決定案では、「COP は促進的対話に関する両議長の発表 (両議長がまとめたインフォーマル・ノートを指す) にある通り、タラノア・ダイアログのデザインを支持する (endorse)」と書かれています。前のバージョンでは「留意する (take note)」となっていたものが、「endorse」という表現になり、表現としてはより強いものになりました。

COP23 の議長は COP24 が開始し、COP24 の議長が選任されるまで COP の議長として任務を継続しますが、実際は、COP23 が終われば、COP24 の議長が COP24 について準備するのが通常です。しかし、次の COP24 の議長国が EU の中ではとりわけ気候変動問題に消極的なポーランドだけに、私たち NGO は COP23 のフィジーの議長が「タラノア・ダイアログ」を主導して欲しいと思っており、この「COP23 議長と COP24 議長がタラノア・ダイアログを主導し、共同議長を務める」との記載が最後まで残って欲しいと考えています。

プレ 2020

「プレ 2020」は、COP 議長の下で協議が続けられ、16 日夜 10 時付けの COP23 決定案の中にプレ 2020 の文書案も含まれています。2020 年までの行動と支援（資金など）について

- 2018 年 5 月 1 日までに条約事務局に意見提出（2020 年までの強化された行動についての進捗と実施に関する追加的な情報）を締約国に招請（段落 3）、
- 条約事務局に各国から提出された意見の統合報告書を準備するよう要請（段落 4）、
- COP 議長によるタラノア・ダイアログに関する報告を歓迎（段落 5）、
- プレ 2020 に関する進捗状況を確認する中間会合（ストックテイク・ミーティング）を COP24（2018 年）と COP25（2019 年）で開催することを決定（段落 6、7）。

等が書かれています。

もともと、2020 年目標の削減目標の水準が低いうえ、日本のように超過達成している国があっても目標を引き上げようとしないうえ、2020 年以降の議論に重きが置かれていること、結果として 2020 年までの先進国の約束が曖昧になることについて、途上国側に先進国に対する強い不信感があります。特に資金については、先進国が約束した「2020 年までに毎年 1,000 億ドル」という資金供与については、思うように資金動員が図られていません。そのうえ、アメリカが緑の気候基金（GCF）に拠出予定であった資金拠出を見送ることを表明し、途上国としては資金支援の確かさについてはっきりさせておきたいというのは当然のことと言えます。

GCF は 2010 年 COP16（カンクン）で設立されたもので、2017 年 5 月時点で約束されていた拠出額は 103 億ドル、アメリカはその約 3 分の 1 に相当する 30 億ドルの負担を表明しており、これまでに約 10 億ドル支払っているものの、実際に資金拠出を見送れば、少なくとも 20 億ドルの資金ショートが起こることになります。こうしたことから特に資金の予見性に関して交渉を求めたいという要求が途上国側にあります。

今回の「プレ 2020」の文書案は、そういう途上国側の意見が反映されたものになっています。

CASA 声明

CASA は、11 月 18 日、OP22 の会場から以下の声明を発表しました。

COP23・CMP13・CMA1-2 CASA 声明

パリ協定運用ルールの交渉加速を！

2017年11月18日（ドイツ・ボンテ）
地球環境市民会議（CASA）

11月6日から、島しょ国フィジーが議長国となって開催されていた気候変動枠組条約第23回締約国会議（COP23）は、11月18日未明（ボン時間）、決定を採択して終了した。

COP23の任務は、来年のCOP24で合意されることになっているパリ協定の運用ルールを準備すること、2018年の促進的対話の進め方を決めることであった。さらに、途上国が強く要求した、2020年までの先進国の約束を点検する「プレ2020」問題をどう扱うかも大きな問題になった。

パリ協定の運用ルールについては、各国の主張や提案を統合したペーパーが作成され、促進的対話についてはIPCCの1.5℃特別報告書のインプットを受け、排出削減の野心強化のための検証が開始されることになった。「プレ2020」については、削減目標の引き上げや資金などについて、2018年と2019年のCOPで検討することになった。COP23は基本的にその任務を果たしたと言ってよい。しかし、パリ協定の運用ルールについては、その内容が具体化しているとは言い難い。交渉時間は追加会合を含めても6週間しかない。可能な限り交渉をスピードアップする必要がある。

COP23のもう一つの焦点は、トランプ政権のパリ協定離脱宣言の影響であった。しかし、COP23の期間中にシリアが批准したことで、パリ協定から離脱するのはアメリカのみになることが確定した。また、アメリカの56%の人口を占める州や都市が参加する「We are still in」イニシアティブの活発な活動がCOP23の参加者を励ました。トランプ政権は、世界でも、国内でも、完全に孤立している。

また、石炭からの脱却の動きも加速している。11月16日には英国とカナダが主導して、石炭からの段階的廃止を宣言する「脱石炭に向けたグローバル連合」が、25の国や都市が参加して結成された。

日本は、石炭技術の展開を優先事項とする「日米戦略エネルギーパートナーシップ（JUSEP）」に合意したことで、「化石賞」を受賞した。ほとんどの先進国が脱石炭の動きを加速するなかで、日本はパリ協定に逆行する「特異」な国になってしまっている。

UNEPの「ギャップレポート」は、「2018年の促進的対話と2020年の削減目標の改定が、2030年のギャップを減らす最後のチャンス」だとしている。2020年までの3年間に人類の未来はかかっていると言っても過言ではない。

会議場から

17日(金)の朝、「タラノア・ダイアログ」と「プレ2020」の新しい文書がウェブにあがっているのを見て、今回のCOPは時間どおりに終わるかもしれないと思ったのはぬか喜び。これらの文書を採択するAPAなどの会議予定がウェブにあがっていないのを見て、嫌な予感が。案の定、すでに夕方7時を過ぎていますが、APAなどの会議が開かれる気配はありません。一日中待ちぼうけです(ボン時間:11月17日午後7時)。

何回も開始時間が変更になったあと、日付が変わった午前1時5分、やっと京都議定書の締約国会合(CMP)と気候変動枠組条約締約国会合(COP)の閉会総会(プレナリー)が開会され、次から次へと、ものすごい勢いで議題が議決されました。国連の議決方法はコンセンサス(異議無し)方式なので、1ヵ国でも「異議」を出すと議決できません。議長が会場を見回して「異議無し(No objection)」と言って木槌を打つと議決されます。CMPとCOPの閉会プレナリーの後、午前2時5分からAPAの閉会プレナリーが始まりました。揉めていたパリ協定9条5項問題もウェブに決定案があがり、18日午前2時35分、ようやくAPAが終了しました。APAの後、パリ協定の締約国会議(CMA)とCOP、CMAのジョイント閉会プレナリーが開催され、APAからあげられた議題が採択されるとようやく終了です(ボン時間:11月18日午前2時40分)。

2019年のCOP25はブラジルが議長国になり、首都のブラジリアで開催されることが決まりました。

発行:地球環境市民会議(CASA)

〒540-0026 大阪府中央区本町2-1-19 内本町松屋ビル10-470号室

TEL: +81-6-6910-6301 FAX: +81-6-6910-6302

早川光俊 +81-90-7096-1688、QYJ06471@nifty.ne.jp

土田道代 +81-90-4299-8646、tsuchida@casa.bnet.jp

#これまでの通信は、以下のサイトをご覧ください

<http://www.bnet.jp/casa/cop/cop.htm>

#CASAのfacebookページ

<https://www.facebook.com/ngocasa1988>